

## コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2023年9月7日

高血圧の新規発症は、インフルエンザよりも新型コロナ感染後が多かった

### 【松崎雑感】

新型コロナは、感染の後遺症として、高血圧をもたらすようです。心臓病が増えるということも報告されており、全身の免疫系を、動脈硬化発症の方向に誘導するようです。インフルエンザではほとんど問題にならなかった「感染の後遺症」が、新型コロナでは、大問題となっています。つまり「ロングコロナ」です。

ポリオの後遺症は麻痺ですが、コロナの後遺症は、数十項目の体調不良です。この点については明日触れます。

高血圧の新規発症は、インフルエンザよりも新型コロナウイルス感染後が多かった

Zhang V, Fisher M, Hou W, Zhang L, Duong TQ. **Incidence of New-Onset Hypertension Post-COVID-19: Comparison With Influenza** [published online ahead of print, 2023 Aug 21]. *Hypertension*. 2023;10.1161/HYPERTENSIONAHA.123.21174. doi:10.1161/HYPERTENSIONAHA.123.21174

## 背景

新型コロナウイルス罹患後高血圧が新規発症することがあるが、インフルエンザ罹患後よりも発症率が高いかどうかを調査した。

## 方法

ニューヨーク市の大学病院関連保健システムの患者を対象とした後顧的観察研究。高血圧の既往のない新型コロナウイルス感染者45398名とインフルエンザ感染者13864名。

## 結果

感染から6か月の時点で、高血圧の新規発症率は、入院新型コロナ患者で20.6%、非入院新型コロナ患者で10.85%。入院患者の高血圧率は、その6か月後にほぼ半減し、プラトーとなった。

新型コロナ入院歴のある患者の新規高血圧発症率は、インフルエンザ入院歴のある患者の2.23倍、入院歴のない患者の比較では1.52倍だった（いずれも有意）。高齢者、男性、基礎疾患あり（COPD、心臓病、腎臓病など）、入院中昇圧剤あるいはステロイドホルモン投与ありの人々で、持続的高血圧が多く見られた。これらの因子を踏まえた数学的モデルにより、79～86%の確度で持続的高血圧発症を予測できた。新型コロナで入院した高血圧の既往のない人々の21%に高血圧が新規発症した。

## 結論

新型コロナはインフルエンザよりも新規高血圧を発症させていた。新型コロナ感染者の膨大なことを考慮すると、高血圧発症により、社会の健康状態に大きな影響をもたらすと考えられる。新型コロナ感染後の高血圧発症に留意する必要がある。